

市指定有形文化財「薬師如来像」（等覚寺所蔵）の修理について（報告）

令和7年度に実施した、市指定有形文化財「薬師如来像」（等覚寺所蔵）の修理について、下記のとおりご報告します。

1 文化財概要

- | | |
|----------|---|
| （１）所在地 | 千葉県若葉区高品町４７８ |
| （２）指定年月日 | 昭和３７年３月３１日 |
| （３）所有者 | 等覚寺 |
| （４）概要 | 等覚寺の本尊であり、その姿は鎌倉時代後半から造像例の知られる薬師如来像の一形式である。像内の墨書から、常鏡により元龜２（１５７１）年に有力僧侶や国人勢力、在地の人々によって造立されたことがわかっている。 |

2 修理概要

- | | |
|----------|---|
| （１）実施日 | 令和7年8月27日（水）～令和8年3月31日（火） |
| （２）修理施工者 | 久保 暁子（扇屋文化財修復室） |
| （３）修理内容 | |
| ア 解体 | 像底蓋板の銅釘（後補）の除去を行った。 |
| イ 清掃 | 表面に付着した油煙、土埃等を水、エタノール水溶液、植物性洗淨液を使い清掃した。
また、解体した蓋板に付着した接着用膠を除去した。 |
| ウ 剥落止め | 頭髮の浮いた彩色に膠と塗布した。 |
| エ 組み立て | 像底蓋板を竹釘と可逆性エポキシ樹脂で接着した。 |
| オ 矧目処理 | 矧目に木屑を充填した。 |
| カ 補漆、漆箔 | 額の欠損部分に金泥、持物に漆箔を施した。 |
| キ 補彩 | 彩色剥落部分に硝煙、汚し粉、膠、アクリル溶剤等の彩色材を用い補彩した。 |
| （４）修理後所見 | |

明治30～31（1897～1898）年に行われた修復で肉身部の金泥及び衣部の漆、像底蓋板が施されており、虫損や木材腐朽、部材亡失などの損傷は見られない。頭体部は同材で割首である。材の接着に麦漆を使用していることから明治の修理で解体している。体前面材と背面材の胸と臀部に四角いホゾがあるが用途不明。衣の後補表面の下に漆箔層があることが確認できた。

五、損傷・保存状態

本像の表面には、法要や儀式、参拝で備えられる線香などの油煙と土ほこりが全体を覆い、像の印象を損なっていた。脚部の遊離がり、表面漆にひび割れ、隙間が生じていた。頭部の彩色は一部剥がれ、額には漆箔の剥落箇所も確認された。像底の蓋板や表面の金泥、衣の漆、彩色は明治三十一年の修復時にほどこされたと考えられる。

後補箇所…像底の蓋板、表面の金泥、衣の漆、彩色、持物

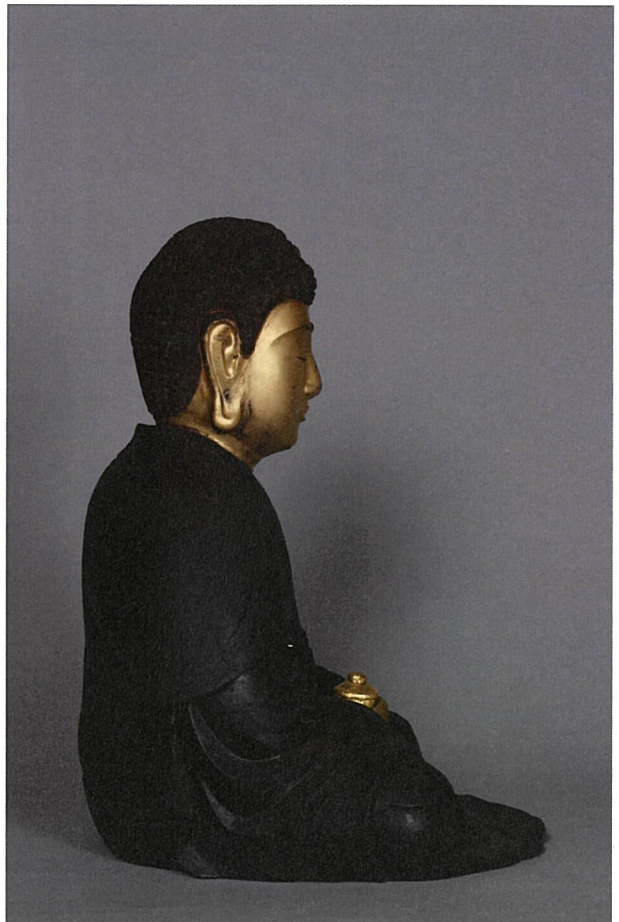
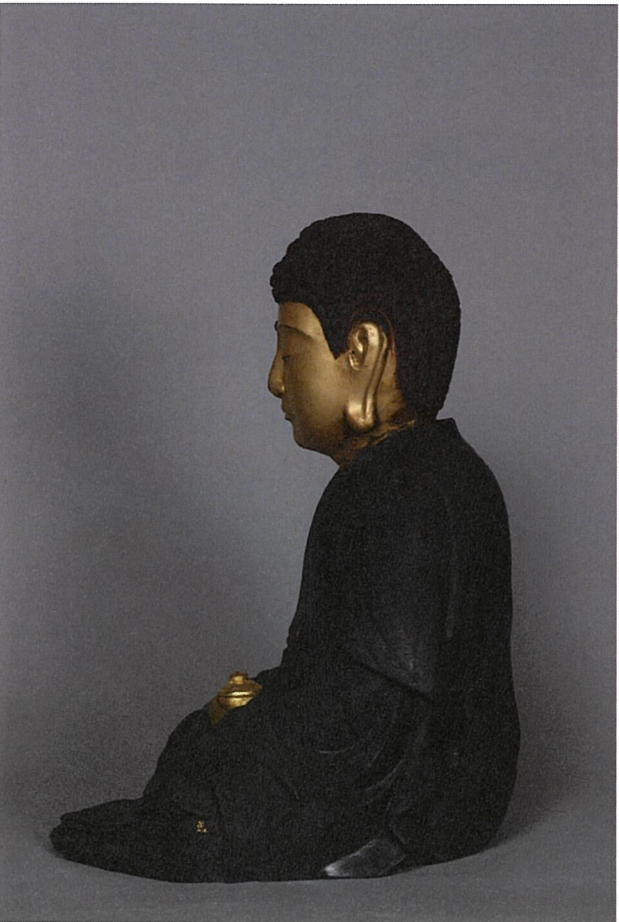
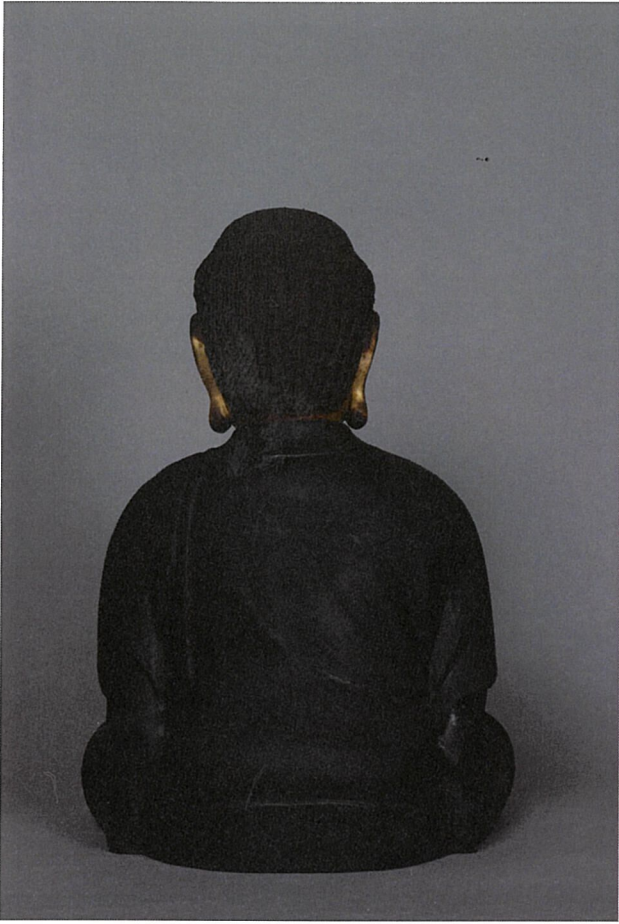
汚れと剥落

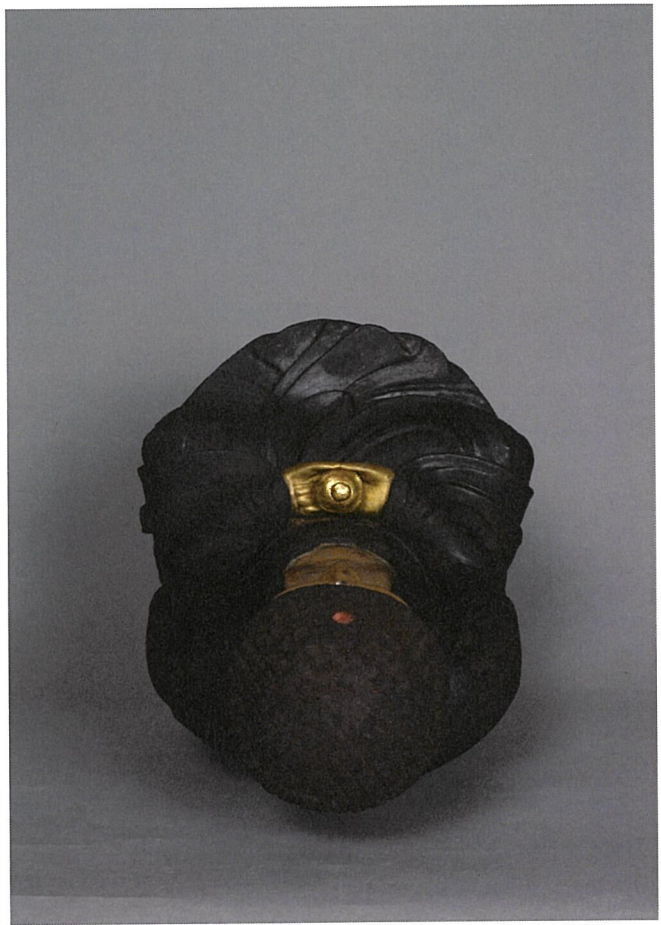


脚部の遊離









◎薬師如来坐像

一、法量 (cm)

像高	三四・五	髪際高	二九・四	耳張	一〇・三
頂頸	一三・四	面長	八・一	面幅	八・四
面奥	一〇・七	胸奥	一〇・九	腹奥	一二・六
膝張	二四・一	膝高(右)	五・八	膝高(左)	五・九
		坐奥	二四・〇		

二、形状

螺旋、肉髻、肉髻珠、白毫相、三道相、耳朶不貫、覆肩衣、納衣を着ず。腹前に左手を下に両手を重ね、薬壺をのせる。結跏趺坐。

三、品質構造

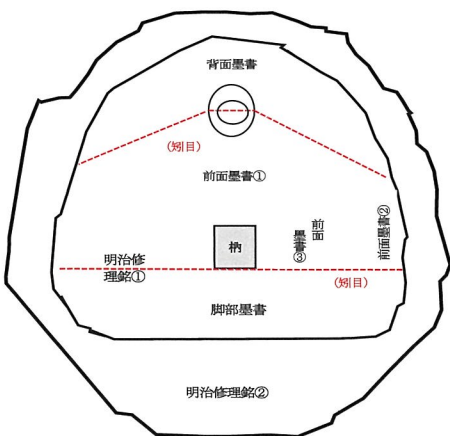
本体 木造(ヒノキ材)、寄木造り、頭体幹部一材、割首、玉眼、漆箔、頭部彩色、持物別材。白毫は水晶貫入、耳後ろで前後二材、前面材は三道下で割矧ぐ。背板風に背面板を寄せ、脚部は横一材から彫出する。手首先は同材の可能性がある。像底には後補の底板がほどこされている。表面の金泥、漆箔、漆、彩色は後補である。

*詳細な形状、品質構造は「千葉市の仏像」「戦国時代における千葉氏の造像―千葉市若葉区等覚寺木造薬師如来坐像と仏師常鏡―」高橋智一(羽衣通信 千葉氏研究 令和六年(二月号))を参照。ただし、品質構造は今回の修理で判明した事柄をもとに訂正、追記した。

四、墨書

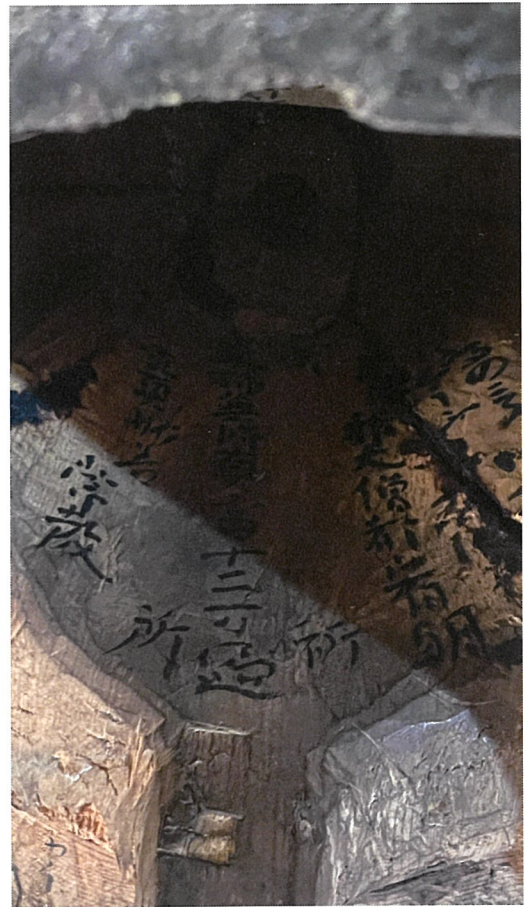
体内墨書配置図(矧ぎ目は一部省略)

配置図・翻刻は高橋智一氏

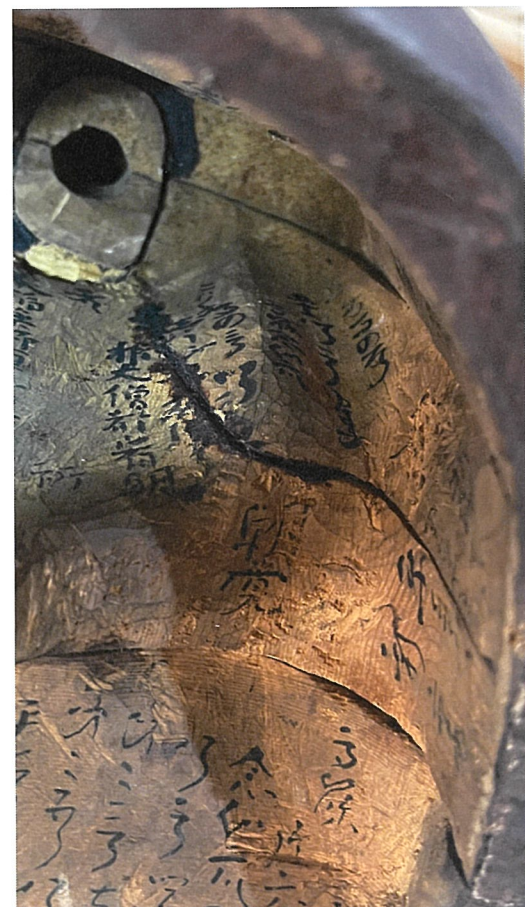


像底 銘文配置図

前面①

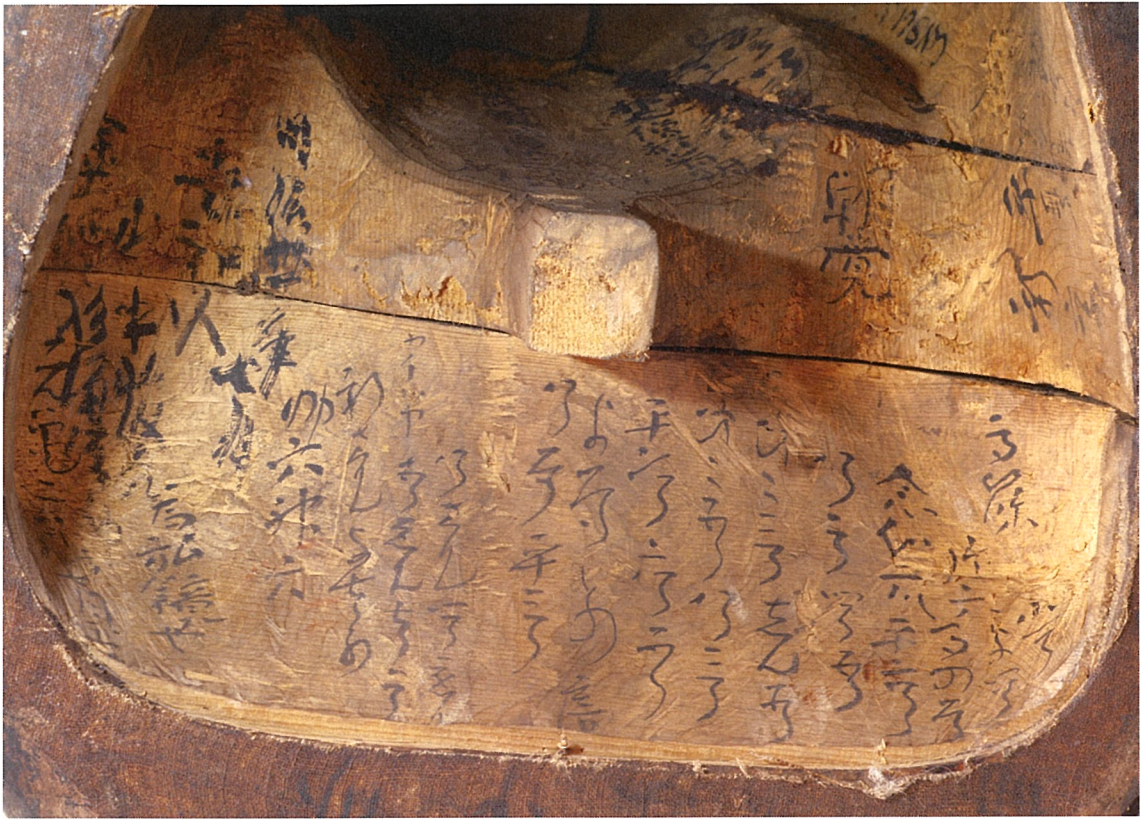


前面②



万□□殿
五十六良二良
高篠念仏衆
□□二良
六千
志う二□
□□
権大僧都有朝
(梵字)
奉誦薬師真言十二万遍
所
覚真妙善
常教

□樂助七郎六郎
□助三郎
平二郎
新六良助



朝覚

高篠 小四良

与四良

弥六 □□良

念仏衆 平六良

八良二良 四良五良

ひこ三良 志ん五良

ひこ五良 八良三良

平次良 六良二良

よ二良 □房

八良太良 平三良

八良さへもん 四良うへもん

五良右へもん 七良二良

新さへもん 与七兵衛

助六神六

為放鏡也

元龜二年辛未七月五日



奉造立薬師如来元龜二年未辛七月二日

□ 朝

権大僧都有朝

藤さへもん

念仏衆

志州常鏡作是

靈文

□ 旦那四良さへもん小四郎

□ □ □

□ 秀

有真 覺秀律師

有覺 朝賀 常鏡

四郎五郎ひこ三郎

神九良殿

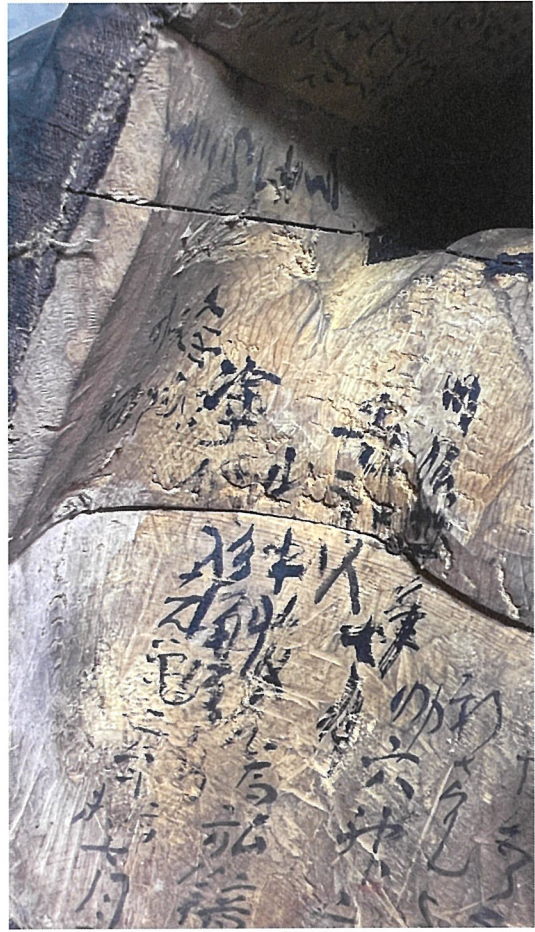
為房

四良さへもん殿

大旦那安藤勘解由殿之房

□ 高篠等覺寺僧都有□

明治の修理墨書（体内）



明治の修理墨書赤外線画像（像底）



画像提供は浜名徳順氏

明治卅年

七月

世話人

山口藤

塗師□□

□□□

明治卅

元年

七月

世話人

山口藤

塗師

枝（技）（鋪）

伝之助